

北上市P連会報

第32号

平成22年
(2010年)
12月20日

発行：北上市PTA連合会 | 企画編集：広報委員会 <http://北上市P連.jp/>

自分で考え、自分で行動できる子どもに育てよう！ 全ての子ども達の無限の可能性のため！



北上っ子5つのやくそく

- 1 自分から 明るく 笑顔であいさつをします
- 2 すなおな気持ちで「ありがとう」「ごめんなさい」を言います
- 3 家族の一員として 進んでお手伝いをします
- 4 物を大切にして 整理せいとんをします
- 5 目標に向かって ねばり強く チャレンジします

平成22年1月 北上市教育委員会制定

目次

◎ 特集1. PTAは未来をつくる仕事 …………… 2・3・4	◎ 報告5. 北上市PTA連合会研究大会 …………… 9
◎ 特集2. 学校の歴史 …………… 5・6	◎ 報告6. 母親委員会活動報告 …………… 10
◎ 報告1. PTA会長・校長・副校長三者交流研修会 …… 7	◎ 黒沢尻東小学校創立50周年記念式典及び祝賀会 …… 11
◎ 報告2. 岩手県PTAリーダー研修会 …………… 7	◎ 黒沢尻西小学校創立50周年記念式典及び祝賀会 …… 11
◎ 報告3. 岩手県PTA研究大会 久慈大会 …………… 8	◎ 北上市PTA連合会会長あいさつ …………… 12
◎ 報告4. 東北ブロックPTA研究大会 八戸大会 …… 9	◎ 編集後記 …………… 12

PTAは未来をつくる仕事

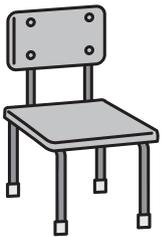
●親学のススメ

昨年の市P連会長の高橋穩至さんがあいさつの中で述べられた「子育てを楽しもう。」というフレーズを今年あちこちで使わせていただいた。これから親として子どもに向き合う姿勢としてこの考え方を基本として欲しいと考えたからである。

同様に、これも一つの方向性を示していると感じた講演を紹介いたします。演題は「親学のススメ」岩手県教育委員会教育委員長の八重樫勝先生による小学生の親たちに向けてのお話でした。学校だけではなく、家庭、地域で教えて欲しいことの一つは「命の重さ」。学校で過去におきた悲しく残酷な殺人事件、このことが教訓になっていない。まるで他人事のようになっている。残念なことだが安全、安心は学校、家庭、地域の輪が完全に一つになったところには存在しない。そこを認識しておくことが大事である。次に「もったいない」の心。物の豊かさが逆に心の貧しさにつながっている。さらに我慢することを教える。テレビを見る時間を減らす。1週間ゴールデンタイムに放送される番組の中で子どもの成長に手助けとなるものは皆無であるといったいい。「時間がもった

いない。見たいけれども我慢をする。」この心で徐々に時間を減らしていくと、本当の意味での家族団らんの時間ももてる。一緒にテレビを見ていても、子どもに家族団らんとして記憶に残ることはない。

子どもに見本となるマナーを親が身につける。あたりまえのことをあたりまえに行う。決して難しいことではないのだが、簡単なことでもない。しかし子どもは見ているのだ。それを忘れてはいけない。あいさつをする。良いことは褒める。お手伝いをさせる。読書と一緒にする。子どもにだけ勉強をさせるのではない。親も学ぶのだ。人と接することで学びは生じる。地域や学校の集まりに参加して人の話を聞き自分の意見を話すことだ。親が変われば子どもも変わるのだ。そして家族仲良く、子どもの前で他人の悪口を言わないこと。ましてや担任の先生の悪口を言うことは、学校が楽しく学び成長する場であることを否定してしまうことになる。どの子も、伸びたい、成長したいと思っ学校へ行くのだから、その妨げとなるようなことはしないように心掛けたい。



●子どもの人権

教育現場で、教員が子どもとうまくいかない時、親が出てくるという話をよく聞く。最近ではモンスターペアレンツではなく、「カーリングペアレンツ」という言葉があるという。親が、子どもが歩く前を何の問題もなく歩けるようにほうきで掃いて、障害物を取り除いてあげる。しかし、初めて障害物が出てくると子どもは自分で避けられない。

昔は中学、高校を卒業後に働き始めて、そこでもまれて成熟していく人が多くいた。それが大学進学率が高まり、「大人」と言われるような年齢に達するまで、教育される環境にいる若い方が多くなってきた。自由と平等を実現するために、どうすべきかを判断できる大人に成熟できるかどうか。今、教育施設が非常に重要な役割を握っているといえる。

他人の命を尊重し、自分も尊重される。自分も誇りやプライドを持つと同時に他人を誇りやプライドを持った人間として尊重する。そういう認識を持たせることが大切だ。

子どもに対して必要なのは「批判」ではなく「模範」。いろいろな規則で縛るより、親や教員が「こう生きていくんだ」「お互いに人

権の持ち主なんだ」という見本を見せていくことだ。成熟した大人になるためには、我々大人が子どもに対して生き方を見せてあげることが重要なのではないだろうか。人権を考える上で、隣に人が一人いれば、『ファイフティ・ファイフティ』ということを考えながら生活すれば、もっと良い人生が送れると思う。

● 将来、未来の話をする

子どもたちに将来なりたいたいものと問いかける。なりたいたいもの選択肢に父親、母親は入っていないことが多い。選択肢も表面的なものや、限られたものを並べているにすぎない。その職業に就くために今から準備が必要だという認識をもてないでいるのだ。親も教えてやれない。自身も親から教わってはいないと思う。

夢のある職業に進むために、あまり辛辣な現実を説いても、子ども心には取り組む前からの挫折感しかなくなってしまう。そうはいってもある程度の年齢になると、社会の具体的な構造を理解する必要がでてくる。

親が具体的に教えられるのは自身の勤める会社の年収と業務内容ぐらいで高所得の家庭ではどうすれば高所得を得られるのか教える

ことはできるが、低所得の家庭において具体的な高所得を得られるための教育というのは、なかなか難しいのではないかと。

誰しも知らないことは教えられないのだから、どこかで情報を得て、行動しないと子どもの将来（高所得⇨幸せとは限らないが）後押ししてやるのは、難しいと思う。

とあるテレビ番組で、世の中には様々な職業がありその大半は認知度が低いという話題を取り上げていた。その職業たとえば職人と呼ばれる人たちの収入、難易度、どうすれば就職できるのか、準備することは等々知られていないことの多さゆえに後継者が不足してしまう。逆に、役人や政治家、創作活動にかかわる人々（作家、芸術家等）などは認知度は高いのだが案外その具体的な内容は職人と同様知られていない。番組の司会者が「これでは本当の意味での将来の希望など湧いてはこない」と語っていた。

中学生くらいになると将来なりたいたいものへのプロセスも含めた指導も必要になると思う。最近中学校の文化祭で様々な展示物の中に、自身のプロフィールそして夢について生徒たちが書いたものが掲示してあった。大半が漠然と「こうなりたい」が書いてある

のだが、中には「医者になりたい。そのために、医学部に進学し、国家試験に合格する。だから現在は理数系に不得意をなくす」と書いているものがあつた。おそらく、この生徒さんのご両親は医療関係者なのであろうと推察される。変わったところで「建築士になる。そのために工業大学を卒業し、宅建に合格するための勉強をする」とあつた。さらに、そこに至るための中学・高校でのプロセス（この場合小目標）が具体的に記されていた。この生徒さんのご両親は建築関係者ではなく、むしろ文科系の仕事をされている。

要するに「親」なのだ。子どもがなりたいたいと思ったものの道筋を具体的に情報収集して、理解できる説明をしてあげる、これができるといふことだ。「幸せになつてほしい」と願うのは親なら誰しも考えることだ。ならば行動するべきだと思う。

● いじめを考える

今の複雑な社会の仕組みの中で「いじめ」の対策をとることは、学校と親だけではもう不可能であると断言している。ならば親はどうすればよいのか。一つの方法としてまず子どもの話を聞いてあげること。（話しにくい年頃であるとい

うことを理解した上でうまく聞き出す辛抱が肝心）そしてその場から逃避することを勧める。「学校に行かなくても良いという風」に地域の学校や教育委員会がだめならば、さらに上の機関があるので（いじめ110番）といったものを利用し多くの情報を得て最良の対策を見いだすというのがある。

これからの子育てには学校、親、地域社会の連携を深めることが重要になってくる。中でも親が学校の行事活動に参加することが手始めで、そうすることによって、今の子どもたちの姿が見えてくる。親がPTA活動に積極的ではない学校は大人には理解しにくい諸問題が根付いている。ここまではっきりと断言したコメントーターは「よのなか科」等有名な藤原和博氏である。ここに述べたことについては、著書やホームページなどに詳しく載っている。是非ご覧いただきたい。（4ページに別資料として「よのなか科」にある現在社会の様子を彼なりに分析した図がありますので参考にしてください。）

資料紹介

中日新聞「いじめ」特集

<http://www.chunichi.co.jp/hold/2007/line/index.html>

いじめた側のレポート、子供から見た大人、子どもたちの心がみえてきます。

●成熟社会のゆくえ

「正解主義」で生きる時代(左)から

「修正主義」で生きる時代(右)へ

情報処理力

IEAの TIMSS 型学力
 成長社会に重視される学力
 読み書きソロバンの基礎学力
 世間の一般的な認識としての「学力」
「正解」を導き出すチカラ
 穴埋め試験をやれば正答率で表せる
 フィンランドは1999年以降不参加
 記憶の中に正解を一杯詰め込むこと
 頭の回転のよさ
 要素をできるだけたくさん憶えること

情報編集力

OECDの PISA 型学力
 成熟社会に重視される学力
 知識を実社会で応用するためのリテラシー
 国際的な競争力を問う場合の「学力」
「納得解」を導き出すチカラ
 記述試験をして評価しなければならない
 フィンランドが3回連続世界一になった
 試行錯誤の中で状況にあった解を探すこと
 頭の柔らかさ
 要素と要素同士の関係性に目を向けること

20世紀成長社会

おぼえる力

単純計算が速い
 漢字をたくさん覚えられる
 コロンブスのアメリカ大陸発見は何年
 1192(いいくに) 作ろう鎌倉幕府
 壁に落書きするのは悪いことだ
パターン認識(短絡的な思考に注意)
 テレビや新聞の報道を真に受ける

つなげる力

文章題、図形問題、グラフの読みに強い
 作文が上手い
 アメリカ大陸発見後に世界はどう変わった
 鎌倉幕府からの武家社会と現代の共通点は
 壁に落書きをするのは自分ならこう考える
違う見方もあるかもしれない(複眼思考)
 他人の意見を参考に自分の意見を構築する

21世紀成熟社会

「みんな一緒」

自動的で素直な吸収

コンビニは便利だから必須だ
 新製品を次々と買う
 環境のためにはエコ製品を買う
 営業マンが勧めたから保険に入る
 いらないから捨てる
 問題の解決には必ずお金がかかる
 この会社は「正解」じゃない
この仕事は合わないから辞める
 栄養が足りないからサプリメントを
 毎日ファストフードかレンジでチン
 ブログでただただ独り言を発信する
 消費者として生きる

クリティカル・シンキング

便利さを享受するため失っているものは
 いいものを大事に使って知恵で使いまわす
 エコ製品を作るための環境負荷は何処に
 自分のリスクをネットで比較して研究する
 捨てる前に誰かが使ってくれないか探す
 お金を使う前にできることはないか
 この会社でも「納得解」にならないか
この仕事を工夫しておもしろくできないか
 基本的な生活習慣を変えられないか
 冷蔵庫を覗いて有り合わせの料理を作る
 ホームページを他人のサイトとリンクする
 編集者として生きる(人生は一冊の本)

「それぞれ一人一人」

正解主義
で生きる

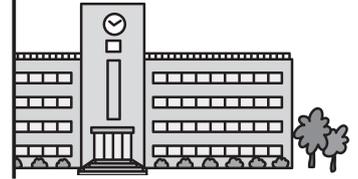
ジグソーパズル 型学力

レゴ 型学力

修正主義
で生きる

特集2

学校の歴史

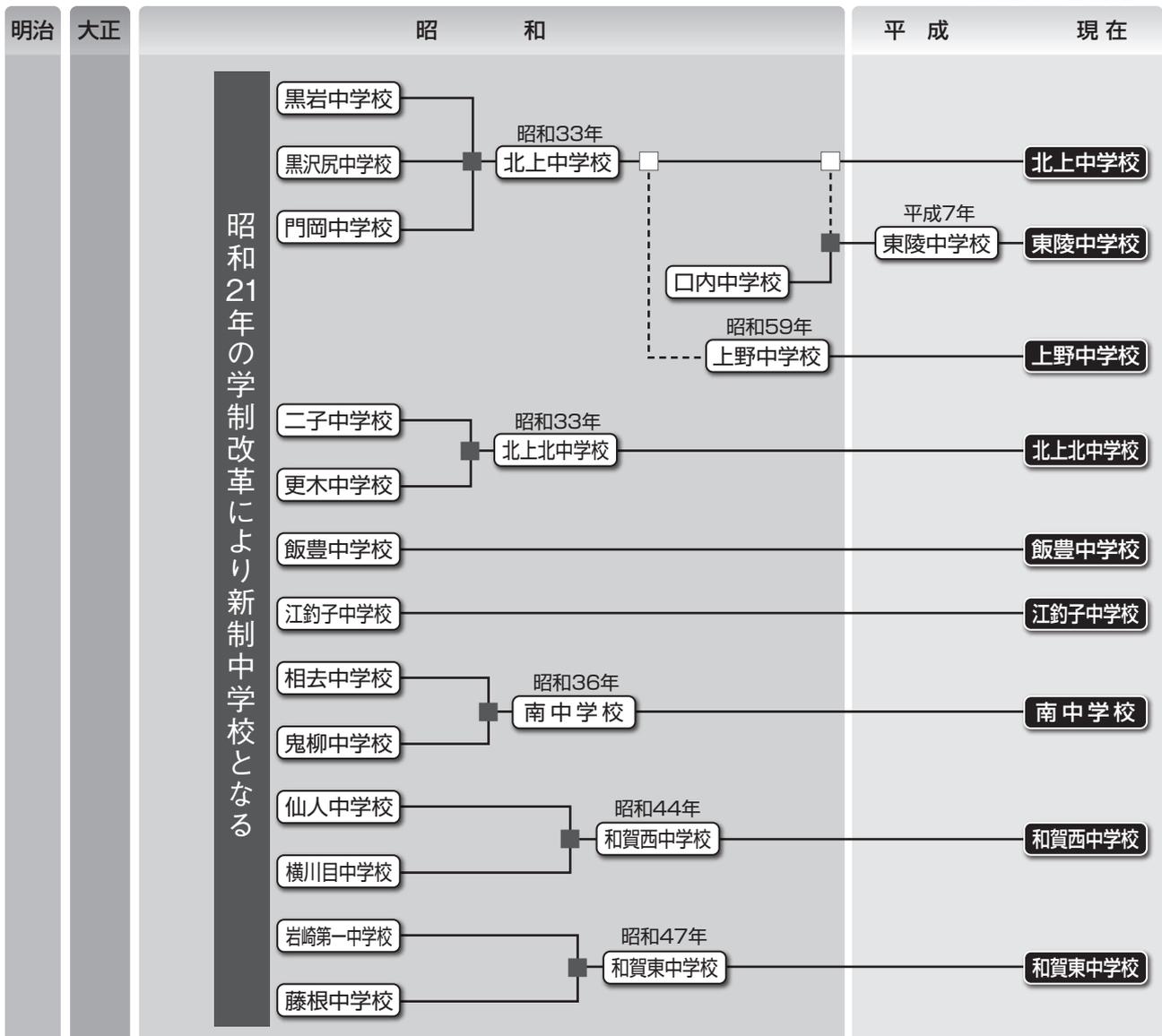


黒沢尻東小学校、黒沢尻西小学校が50周年を迎え、学校適正化の話もある今年。北上市内の小中学校の歩みを少し調べてみました。

市内の学校で古い所は明治初期に開校して、140年位経っている学校が8校も在り、平成になってから出来た学校は3校在りました。その3校は新しいと言っても統合して出来た学校でした。各学校も色々な歴史があると思います、また今は無くなつてしまった学校もそれまでの歴史があり、新しい学校になつても今度は新しい歴史を作つて行くのだと思います。皆さんも自分の学校の歴史に興味をもつてみませんか？

北上市内中学校の沿革

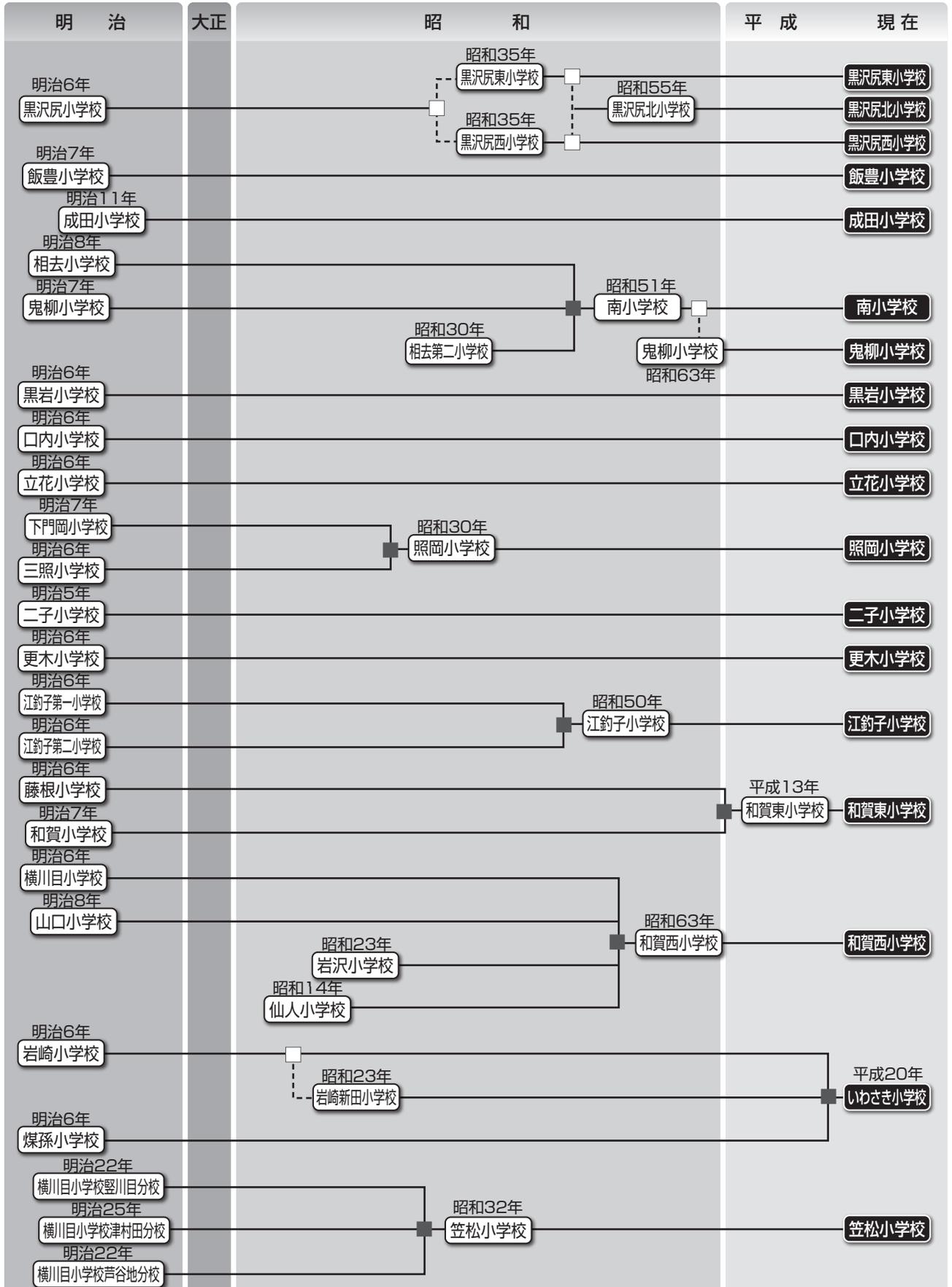
■ 統合 □ 分離



平成22年度北上市立小・中学校要覧より

北上市内小学校の沿革

■ 統合 □ 分離



平成22年度北上市立小・中学校要覧より

みんな違ってみんないい

7月25日(日)、岩手県教育委員会教育委員長の八重樫勝氏を講師にお迎えし、PTA会長・校長・副校長交流会が行われました。委員長としての仕事の様子や岩手の教育にかける思いを交えながら、熱弁をふるっていただきました。

まず、子どもを取り巻く状況で気になることとして、命が軽んじられて安全が脅かされていること、子どもによくない情報が氾濫していること、大人のよくない手本が多いこと等が具体的に紹介されました。

次に、子どものうまくない実態で気になることとして、我慢強さにかけ切れやすいこと、継続力が不足していること、集団を作れず孤立していること、自分に自信がもてないこと、将来に夢や希望をもてないこと、社会性が欠如し人間関係が希薄であることが指摘されました。

そして、演題「親育ち」にかかわって、次のようにまとめられました。「みんな違ってみんないい」という考えに立ちいい関係を作ってほしいこと、失敗をおそれず(ごくふつうにあたりまえに)子育てをしてほしいこと、できないことをしかるのではなく、できたことをほめてほしいこと、よい言葉の環境(読書、日常会話)をつくってほしいこと、「家族仲良く」支え合う家庭をつくってほしいこと等を、子どもの作文を紹介しながら強調されました。

最後に、よい子を育ていい学校を作るためには、親や教師が大人として凛と生きる、先生とPTAが仲良くし信頼関係を作ることが大切であることを繰り返し話され、笑いあり、涙あり、感動一杯の講演会があつという間に終了してしまいました。



学び舎の数だけ輝きがある学校の実現

7月10日(土)盛岡市渋民文化会館(姫神ホール)にて、平成22年度「岩手県PTAリーダー研修会」が開催されました。研修会は、岩手県内の単位PTA代表及び、評議員590名が参加し行われ、北上市PTA連合会からは、15名が参加しました。

研修会の内容は、2部制で行われ

- 1部：岩手県教育委員会 法貴 敬教育長を講師に「岩手県の教育について」の講話
 - 2部：平成22年度県PTA連合会「事業計画及び予算」説明と、社団法人岩手県PTA連合会の在り方についての意見交流会
- が行われました。

講話では、現代の変化が子どもたちの自律性・学習意欲・継続力の低下をもたらしており、生活習慣の低下が、生きていく為の生活基礎力自体を危うくしていると説明され、より一層の学校と家庭、地域の連携・協働の強化が必要で、それこそが、いわて型コミュニティスクール構想が求めるもの「学び舎の数だけ輝きがある」学校の実現を可能にするということでした。

又、学力については家庭学習の時間数が少なく特に中学生で全国レベルの-20%と低い状況で、テレビ観賞時間が全国一長いのも一つの理由とされていました。

最後には、これからの施策が説明され中学校力試しテストの実施・家庭学習在り方検討等の説明をいただきました。

今回の講話資料にて、「自分が好きですか?」と小学5年生・中学2年生にアンケートした結果が載っていました。「はい」と答えた小学5年生は64%、中学2年生は31%でした。中学生については発達の関係もあるかもしれませんが、北上の子はみんなが「はい」と胸を張って言える環境に出来たらなと思いました。



家庭円満で良い思春期を



9月4日(土)、久慈市において(社)岩手県PTA連合会第39回岩手県PTA研究大会久慈大会が開催されました。

「やませの大地から学校・家庭・地域の太い根っこ絆を」を大会テーマに午前中は7会場においてそれぞれ「組織運営」「研修活動」「健全育成」「家庭と小学校教育」「家庭と中学校教育」「家庭教育セミナー」「特別花壇」をテーマに分科会が開催され、基調講演とパネルディスカッションによる熱い研修が行われました。

午後は全体会が開催され、山内久慈市長をはじめとするたくさんのご来賓を仰ぎ、アトラクションでは普代中学校の生徒の皆さんが無形民俗文化財に選出された普代村の「中野流鶴鳥

七頭舞神楽」を披露し、大きな拍手が寄せられ会場を盛り上げました。生徒の皆さんの力強い舞踊に日頃からの練習の成果や子ども達の可能性を改めて感じる事が出来ました。学校と地域連携が重要視されている中、地域の芸能を受け継ぎ、成果を発表できるのは素晴らしいし、手本としたいと感じました。

記念講演としてパラリンピック銅メダリストの大井利江氏を迎え、『「私の歩んだ道」妻に支えられつかった栄光!』と題して記念講演会が行われました。未熟児で生まれたが小学生の頃から漁師を手伝い、高校は定時制に進み仕事をしながら勉強と野球を頑張っていたことなど、温かい雰囲気の中で講演され興味深いお話でした。家族を助けるため高校を中退し、漁業の道へ進み遠洋漁業のエピソードは楽しくもあり、大変な苦労もありユーモアを交え楽しく聞くことが出来ました。



大けがをしてから奥様と一緒に陸上競技に取り組み円盤投げではパラリンピック初出場で銀メダルを獲得する快挙を成し遂げました。この快挙もひとえに奥様の支えがあり、辛いときも奥様の支えがあったから競技が続けられること、更には金メダル獲得を目指して現在も取り組んでいる姿には大変感動し、五体満足に生活できる我々はもっと頑張らないといけないと勇気づけられるようでした。講演の最後にパラリンピックで撮影された写真のスライドショーがあり、各国の参加者との交流の様子や、テレビでは見ることができない映像を見ることが出来たのは貴重な経験でした。

第6分科会「家庭教育セミナー」に参加して

アンバーホールの小ホールにて第6分科会「家庭教育セミナー」が行われました。構成は基調講演とコーディネーターとパネリストの皆さんによるパネルディスカッションでした。

基調講演は奥州市で現在もご活躍の大村千恵先生の講演でした。「子どもは育てられたように育つ」～良い思春期を迎えるカギは幼児期にあり～をテーマに大変胸を打つ講演でした。大村先生が中学校のPTA役員の当時、不良生徒と正面から向き合い、更正させた勇気と情熱には驚かされるばかりでした。そしてそのバイタリティーが現在の活動に繋がっていて、ひとりぼっちを作らない運動を行い子どもの居場所作りをしています。最近の子どもは自己中心的で他者との関係作りが下手で打たれ弱いように見えます。それは孤独で孤立した子どもたちが多くなっているのが原因の一つ。出来るだけ孤独な子どもを作らないための大村先生の活動には共感を覚えました。PTAも学校と地域と連携をとり、子どもたちをひとりぼっちにしない活動はまだまだ出来ると思いました。また、良い思春期を迎えるのには家庭が円満であることが一番だと改めて感じました。思春期に問題を起こす家庭に多く見られるのは家族や親戚との間に「憎悪」がある家庭とのこと。子どもは親の背中を見て育つという諺がありますが、幼児期の家庭環境は大変重要であることを再認識しました。

充実した東北ブロックPTA研究大会

今年度の第42回東北ブロック研究大会八戸大会は、9月11(土)～12日(日)の2日間にわたり青森県八戸市で開催されました。北上市PTA連合からは、老林会長、副会長4名、小田島和賀西中学校PTA会長が参加しました。

1日目は、八戸市と南郷町の7会場に分かれて分科会が行われ、それぞれ希望した分科会に参加しました。どの分科会も基調講演とパネルディスカッションの2部構成で行われました。

第2分科会は「参加型学習でつくるPTA研修」と題して青森県教育庁教育政策課政策企画グループサブマネージャー指導主事の渡部靖之氏の基調講演と、3名のパネラーとコーディネーターによるパネルディスカッションが行われました。その中でキーワードはワークショップで、パネルディスカッション中に会場内で6～7名のグループを作りワークショップを行いました。初対面の方々と突然のワークショップで最初は戸惑いでしたが、序々に決められた時間内にグループの意見をまとめる事が出来ました。

夜は、八戸市内で67名の岩手県内の単P会長と岩手県PTA連合の執行部の方々と懇親会が行われました。隣の席の方は少人数の小学校の会長さんで、今年度は新入生が居なく入学式が無かったとか、運動会は児童だけでなく地域の皆さん総出で行われているとの話を聞きました。

2日目は八戸市で全体会が行われ、元巨人軍の桑田真澄さんの「夢をあきらめない」という記念講演が行われました。野球を始めた時から現役を引退するまでの数々のエピソードを交えて、「努力」・「試練」・「本物に触れる」のキーワードを会場の人に紹介して頂きました。サイン色紙をあげたり、ユニホームを着用させたり、サインボールの抽選会もあって楽しい時間でした。また、開会行事において黒沢尻西小学校PTAが団体表彰を受賞しました。



教育や躰の留意点を確認しよう

あえて、解り切っていると思う子どもの教育や躰の留意点を、今一度確認しよう。

「子ども自身のため(個人の経済)」というミクロの視点と、「社会のため(社会参画・貢献)」というマクロの視点、この二つである。

親の思考がブレないよう、軸はシンプルにかつしっかりと持っていなければならないことを思う。いうまでもないが、まわりとの比較でもなく、親の体裁のためでもない。誰しもが「そんなの当たり前！」そう思っている筈だ。しかし情報の誤った解釈や子育て環境の閉塞感などから、子への想いがブレ、歪んでしまうこともある。子の将来を思わない親などいないが、昨今目を覆いたくなるような事象が頻発している。取りただされなければならない問題群が押し寄せている恐怖を感じる。



長屋先生による講演は、ライトな語り口で「あ、なるほど」と感心させられる言葉が随所にちりばめられていた。ワークショップで参加者と同じテーマで様々話し合い、口にする事で想いに彩度が増す、ということもあった。とても有意義な時間だった。私たちはこれらの体験をより多くの人々と共有するべきだ。

あえて、当たり前と思う子どもの教育や躰の留意点を、今一度確認しよう。

活動報告 この一年

北上市には、小学校が18校と、中学校が9校あります。その中の中学校区から9名の母親委員が選出されており、3つの柱で活動しています

- 1、母親の立場から、児童・生徒の健全な育成を図る。
- 2、子どもの成長に影響を与えている母親が、家庭教育のあり方を共に学び合う。
- 3、情報交換をし、PTA活動・運営に反映させていく。

【母親委員会の活動紹介】

- ★第15回家庭教育セミナーへの参加
- ★食育に関する研修会 於：「ニコッと」店
- ★第14回「おかあさんの詩」全国コンクール実行委員会
於：さくらホール
- ★給食施設の研修と試食会 於：西部給食センター
- ★岩手県PTA連合会母親委員との連携
- ★和賀地区連絡協議会への協力
- ★北上市PTA連合会会報誌での情報発信など



今年家庭教育セミナーは、久慈地区と両磐地区で開催されました。参加して感じたことは、PTA内や家庭内でもいろいろな悩みがあると思いますが、ひとつの学校内で悩みや問題を解決しようとするのではなく、たくさんの学校での取り組みや解決策を参考にしながら現状を把握して解決する手段を見出していく、子どもたちが楽しい学校生活を送ることが出来る環境を、私達保護者が作って行きたいと思いました。

食育研修会は、地産地消の食材にこだわっている「ニコッと」店で7月に開催しました。お店の前の畑では色々な野菜を育てており、新鮮な食材をお料理に出していました。

千葉社長の講演内容は、3つのキーワード「こだわり」、「自分なりに」、「明確な定義づけ」で生き方や幸せ、食についての思いをお話いただきました。講演の後で素材の美味しさを生かしたお料理をみんなで頂き、身体にもやさしいメニューで家族にも作ってあげたいと思いました。

10月には西部給食センターの視察と試食会を行いました。センター長さんや栄養士さんから施設の説明や給食を作るうえで留意していることなどお話をいただきました。実際に作っている様子はガラス越しに見ることが出来ました。西部給食センターでは、市内の幼稚園、小中学校の15箇所約3000食を供給していて調理士さんはテキパキと作業されました。職員のお話では、子ども達の喜んで食べている笑顔を思いながら心をこめて作っていると、感謝の気持ちでいっぱいになりました。



最後に、母親委員会の活動にご協力いただいた皆様本当にありがとうございました。

黒沢尻東小学校創立50周年記念式典及び祝賀会

平成22年11月6日(土)

記念式典 9:00~11:30 黒沢尻東小学校体育館
祝賀会 12:30~15:30 ホテルシティプラザ北上

天候にも恵まれ、快晴の中、黒沢尻東小学校創立50周年記念式典及び祝賀会が11月6日に盛大に開催されました。

記念式典は課外クラブのトランペット・バトン・合唱の発表から始まりました。多くのご来賓や旧職員、地域の方々、父母と先生の会、実行委員会、教職員の皆様、6年生の児童が参加されました。23名1団体の方々に感謝状が贈られ、沢山の方々が黒沢尻東小学校に携わってきたことが伝わりました。記念事業の紹介では、卒業生の小笠原亘TBSアナウンサーの講演会、アンダーパスライブin黒東小、黒西小交流事業、施設整備事業、校内整備事業、記念誌作成事業と様々な事業を披露されました。児童の呼びかけでは、50年を振り返る呼びかけの後、息の合った大きな歌声を発表してくれました。最後に校歌斉唱で式典は終了しました。



場所をホテルシティプラザ北上に移動し開催されました祝賀会も多くの方々が出席され、盛大に開催されました。地元の小鳥崎神楽、川岸かっぱ太鼓が会を盛り上げ、日頃から地域と密接に交流されているのが感じ取れました。最後は今後益々、黒沢尻東小学校が発展することを祈念し万歳三唱にて締めくくり、祝賀会が終了しました。

長い準備期間を経て開催された式典、祝賀会が“絆”というテーマのもと、成功裡に終了し、今後さらに黒沢尻東小学校が児童を中心に、先生方や父母と先生の会や地域の方々为一体となり活躍を続けていきたいです。

黒沢尻西小学校創立50周年記念式典及び祝賀会

平成22年11月19日(金)

記念式典 14:00~15:30 黒沢尻西小学校体育館
祝賀会 17:30~19:30 ホテルシティプラザ北上

北上市立黒沢尻西小学校の創立50周年記念式典「はばたき ~きのうのきみから明日のきみへ~」は、11月19日(金)黒沢尻西小体育館で行われた。5・6年生153人と教職員・記念事業実行委員会、来賓ら合わせて約400人が出席。澤田校長先生は学校の歴史に触れながら「周りの風景が変わっても黒沢尻西小の精神は変わらない。100周年に向け地域を大切に、保護者と共に歩んでいく」と式辞を述べた。高橋善郎実行委員長は「地域の方々の温かい目・手・心に見守られここまで来た。50年間支えてくれたすべての皆さんに感謝し、本校の発展を期待する」と挨拶した。

その後、記念事業報告がされ、次の感謝状贈呈では教育活動に貢献した功労者や記念事業への協力者ら8人、4社に実行委員会から感謝状を贈った。新調



した校旗を児童運営委員長の齊藤さんに渡し、児童代表の言葉では「感謝の気持ちを忘れず、大切にしてきたことを引き継いでいきたい」と話した。

5・6年生が心を一つにした合唱を披露し、全員で校歌を斉唱し式典を閉じた。

式典後には記念祝賀会が開かれ、今年の3月卒業した西小・東小の第50回卒業生合作による「展勝地の桜をバックに踊る鬼剣舞の絵」が飾られ、式典に華を添えた。



親であり先輩であり



北上市PTA連合会会長
老林 秀幸

まずは、日頃より会員の皆様やPTAに関係する方々から、PTA活動へのご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成二十二年度の北上市PTA連合会の会長として、副会長方や事務局、各単P役員様方からの力添えを頂きながら、より良い活動を行えるように頑張りますので、本年度宜しくお願いいたします。

さて、それぞれのPTA役員職に就かれている方々に置かれましては、役員職スタート時にどのような気持ちでスタートしたでしょうか？新しく何かを行ってみよう、と考えた「改革」や、自分には何が出来のたろうか？という「不安」。あるいは、新しい人との「出会い」等の、人それぞれ様々な心境があったのではないのでしょうか。新しく物事を始める時の期待や不安は、大人と子どもで違いは無いと、私は感じています。皆さんの生徒時代は如何だったでしょうか。同じような経験を子ども達が今、まさに積み重ねているのではないのでしょうか。そして、そんな子ども達の心境を解ってあげることが出来るのは、人生の「先輩」である我々ではないかと私は思います。学校生活

を送っている児童や生徒達の、日々の体験・経験を余すことなく見て、聞くことが出来るのは私たち「親」ではないでしょうか。などと、私は以前より考えていました。しかしながら、そんな気持ちの内をなかなか表に出すことが出来ずにいたところへ、今回の会長職就任が心のもどかさの扉を開けてくれたように感じています。今年度の市P連研修大会にて、私の葛藤を振りほどいてくれるように、研修委員長が企画・立案して、共に理解してもらえようにと、本年度の研修大会は企画されています。「親が変われば子どもが変わる。大人が変われば社会が変わる。」この言葉から、どのような感覚を得ることが出来ますか。少なくとも、我々は大人であり、親であり、先輩ではないのでしょうか？

多種多様な思いを、皆で分かち合いながら、本年度は活動していきたいと思っておりますので、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

それでは皆さん、今後ともお互いに頑張りますように。

編集後記

今年度の北上市PTA連合会の広報委員会は、市P連広報の経験豊富なベテランから、新メンバーを交えたバランスの良い構成でした。特集記事の内容については、いろいろ悩みましたが良い企画に仕上がったと自負しております。

少子化が益々加速し、北上市内の児童・生徒数も減少し続けています。市内の小・中学校についても適正配置等基本計画(案)が策定され地域説明会が各地で開催されました。我々PTAも市側の統廃合の意向と、地域住民の存続を願う思いとの狭間で考えなければならぬ事案となっております。

今後も子どもたちの教育環境にとって一番良い方向性を見出す事に努力して行くPTAである様に活動しましょう。

(広報委員長 多田信夫)

平成22年度市P連広報委員会

- | | | | | | |
|--------|----|----|----|----|-----------|
| (委員長) | 多小 | 田原 | 信博 | 夫和 | <江釣子小学校> |
| (副委員長) | 小菅 | 原葉 | 博浩 | 和一 | <和賀西小学校> |
| | 千竹 | 業沢 | 浩貴 | 一幸 | <黒沢尻西小学校> |
| | 多 | 沢田 | 貴雄 | 功 | <黒沢尻西小学校> |
| | 蔵 | 澤野 | 雄 | 徹 | <成田小学校> |
| | 間 | 藤村 | 健一 | 一郎 | <黒岩小学校> |
| | 昆 | 柳部 | 将勝 | 之 | <口内小学校> |
| | 伊 | 柳部 | 勝真 | 寿 | <和賀東小学校> |
| | 田 | 柳部 | 賢正 | 理 | <上野中学校> |
| | 鬼 | 柳部 | 樹 | 也 | <北北小学校> |
| | 阿 | 柳部 | 樹 | 樹 | <黒沢尻北小学校> |

